



CEO MESSAGE

CEO 兼代表取締役社長
小池 広靖

「世の中の役に立つ」資産運用会社 であるために

2024年は、「静」から「動」へと大きく変わる一年となりました。日本経済においては、インフレ率が継続的な上昇に転じ、賃金の伸びを背景に金融政策が大きく転換され、デフレ脱却が明確となりました。また、政治的には、米国をはじめ各国で政権交代や金融財政スキームが変わることで様々な政策の修正が進んでいます。様々な変化への対応は求められるものの、当社が目指す「世の中に役に立つ」資産運用会社であるためには、ESGなどへの対応を通じた企業価値の向上と、それを通じた投資リターンの上昇による資産形成に資する商品・サービスの提供という軸（インベストメント・チェーン：投資の好循環）をぶれることなく、揺るぎない姿勢で継続的に進めていくことがより重要であるとの思いを強くしています。

当社は「責任ある投資家」として、資産運用ビジネスを通じた「社会的価値」と「経済的価値」の両立を目指しています。社会的価値の創造、すなわち社会課題の解決に向けて軸となる考えが、インベストメント・チェーンです。経済的利益を創出する企業は、「持続可能な豊かな社会」への貢献が求められることとなります。そして「資産運用会社」は、投資によって「投資家」と「企業」を結び付けることにより、投資の好循環を生み出し、「持続可能な豊か

な社会の実現」に向けて重要な役割を担います。これが当社の軸としているインベストメント・チェーンの考え方です。この好循環を支えるためには、資産運用会社と投資先企業との建設的な対話「エンゲージメント」が欠かせません。こうした対話をベースに、企業のESG・SDGsへの取組みを通じた企業価値の向上を後押ししたいと考えています。当社は「責任ある機関投資家」としてだけでなく、「世の中に役に立つ」資産運用会社として私たち自身も変化を恐れず、最良のESGプロダクトを提供し、企業価値向上と持続可能な社会の構築という道を歩み続けます。

そして、野村ホールディングスは、2025年12月に創立100周年を迎えます。この節目となる100年というタイミングに合わせて、そして次の100年に向けて野村の存在意義、野村の今後の役割を考える機会とし、2021年よりグループ全体での対話を進めてきました。そして様々な議論を経て、「金融資本市場の力で、世界と共に挑戦し、豊かな社会を実現する」というパーパスを設定しました。野村グループの一員である野村アセットマネジメントもこのパーパスを真の意味で達成できるように、日々お客様をはじめ全てのステークホルダーと一緒に「挑戦」を続けていく所存です。

Expertise to Exceed¹⁾

時代を先駆ける専門性と先見性を力に。
卓越したパフォーマンスとソリューションを追求することで、
期待のさらにその先へ。